

日本原子力学会 核燃料部会
令和 8 年度第 3 回運営小委員会議事録

日時 : 令和 8 年 9 月 16 日 (水) 10:00~12:00 於 WEB 会議(Teams)

出席者: 黒崎部会長, 宇田川副部会長, 坂本副部会長, 阿部委員, 有馬委員, 浦野委員, 大石委員, 長内委員, 片山委員, 澤委員, 篠原委員, 園田委員, 西内委員, 松永委員 (代理: GNF-J 青見氏), 森本委員, 香川委員 (代理: 電源開発 土淵氏), 西岡 (記)

議事:

0. 開催挨拶

運営小委員会開催にあたり、黒崎部会長からご挨拶をいただいた。

1. 前回議事録等の確認 (資料 1)

前回 (令和 8 年度第 2 回) 議事録は確認済みであり、配布のみ。

2. 令和 8 年度核燃料部会業務分担について (資料 2)

令和 8 年度の業務分担について西岡から説明した。西岡の庶務幹事の任期が 9 月末で満了し、10 月から山田委員に交代することを報告した。山田委員への業務引継ぎは実施済み。

3. 令和 7 年度収支実績と令和 8 年度予算について (資料 3)

令和 7 年度の収支実績及び令和 8 年度予算について西岡から報告した。前回提示資料からの主な変更点として、令和 7 年度末繰越金に学会ホームページから取得した最新値を反映した。

4. 企画小委員会の概要について (資料 4)

宇田川副部会長より、企画小委員会の名簿変更及び検討状況について報告いただいた。庶務幹事の交代に伴い、企画小委員会の委員を西岡から山田委員へ変更する案が示され、承認された。また、若手主体の企画セッション検討チームについて、2027 年秋の大会での企画実施を目標に、現委員からの推薦を基本として初回メンバーを募る方向で検討していることが報告された。

5. 企画小委員会の在り方について

議題 4 の報告を受け、企画小委員会の新体制について議論した。電力会社では若手を推薦することのハードルが高い一方、大学等から幅広く候補者を募ることが有効との意見があった。初回メンバーは現委員からの推薦を基本としつつ、運営小委員からの推薦も含めて柔軟に候補者を募る方向とした。現企画小委員を一定数残しながら若手チームを設ける案が示され、委員の交代又は純増を含む具体的な体制は企画小委員会で引き続き検討することとした。

6. 2026 年度夏期セミナーの開催報告について（資料 6）

篠原委員より、8 月 4 日から 6 日に水戸で開催された第 35 回核燃料・夏期セミナーの開催結果を報告いただいた。参加者は 60 名、見学会参加者は 20 名、懇親会参加者は 47 名であり、講演 13 件及びポスター発表 6 件を実施した。収支は 227,738 円の余剰となり、現在、学会事務局で精査中とのこと。余剰金の取扱いについて、部会への繰入れ可否及び割合を学会事務局に確認することとした。また、今後は参加者数に応じた参加費設定や学生への旅費支援等、余剰金の有効活用も検討すべきとの意見があった。

7. 2026 年秋の大会の学会講演賞の選考について

森本委員より、2026 年秋の大会における学会講演賞の選考状況について報告いただいた。審査結果は集計中であり、未提出者からの提出後、選考結果をメール審議に諮る予定。

8. 核燃料部会報について（資料 8）

香川委員の代理として土淵氏より、2027 年 1 月頃発行予定の核燃料部会報（No. 62-1）の編集方針について説明いただいた。2026 年秋の大会企画セッションの記事は大石委員が執筆することとなった。TopFuel2026 の記事は会議参加者で分担し、園田委員が取りまとめることとなった。その他の掲載候補については、トピックがある場合に香川委員へ連絡することとした。

9. 今後の核燃料部会 HP 管理の体制について（資料 9）

浦野委員より、HP 管理体制の検討状況を報告いただいた。現管理者から管理概要及び更新方法の説明資料が提供された旨紹介があった。ホームページビルダーの購入やファイル転送ソフトを導入する場合、PC 環境の制限から電力委員による持ち回り対応は困難な見通し。現行サーバーの継続使用を基本としつつ、新サーバーの利便性や委託とした場合の費用を引き続き検討することとした。また、更新作業だけでなく、掲載内容や更新時期を判断する HP 全体のマネジメント担当を明確にする必要があるとの意見があり、役割分担も含めて引き続き検討することとした。部会 HP アドレスの変更（SSL 化）についても周知された。

10. TopFuel2026 の準備について（資料 10）

園田委員より、TopFuel2026 の準備状況について説明いただいた。9 月 14 日時点の参加申込数は 377 名であり、会場、バンケット、ケータリング、参加証、ノベルティ、スポンサー及びプログラムの準備を進めているとのこと。収支に余裕が見込まれる場合は、参加者へのサービス向上に有効活用すべきとの意見があった。また、ホームページについて、受付及びウェルカムレセプションの時間・場所、会場内案内を早急に掲載するとともに、同一区分のスポンサー表示が公平になるよう配慮すべきという意見もあった。ロシア企業のスポンサー

申込みについては、必要情報が期限までに提出されなかったため、先方合意の上で辞退となったことが補足された。

1 1. 部会等運営委員会からの連絡事項（資料 11）

坂本副部長より、共催・協賛・後援等に関するメール審議及び 2026 年秋の大会ポスターセッション発表賞選考委員会への参加について報告いただいた。

1 1-1. ポジションステートメント WG 活動（資料 11-1）

坂本副部長より、ポジションステートメント WG の活動について説明いただいた。2018 年 11 月制定の「燃料デブリについて」は直ちに引き下げず、現行区分の「解説」から「見解」への区分変更を基本に対応し、学会側から指摘があった場合に改めて検討することとした。新たなポジションステートメントの提案については、作成負担も踏まえ、現時点では具体化しないこととした。

1 1-2. TopFuel2027 のプログラム委員の推薦（資料 11-2）

坂本副部長より、TopFuel2027 のプログラム委員推薦案について説明いただいた。TopFuel2026 の各トラックリーダーを第一候補として個別に就任可否を確認し、承諾が得られない場合は代理候補の推薦を依頼する方針を承認した。確認結果は次回運営小委員会等で共有する。

1 2. IAEA-TWG-FPT 年次会合報告（資料 12）

JAEA 逢坂氏より、4 月 27 日から 30 日にウィーンで開催された第 24 回 IAEA TWG-FPT 年次会合について報告いただいた。各国の核燃料技術動向、IAEA 活動、CRP 及び 2027 年から 2029 年の活動計画が議論され、TopFuel2026 の準備状況も報告したとのこと。また、炉型別タスクフォース等への若手参加を歓迎しており、関心がある場合は逢坂氏から情報提供いただける旨の案内があった。

1 3. 運営小委における情報交換・情報共有について（資料 13）

宇田川副部長より、高燃焼度燃料の反応度事故模擬実験における燃料破損時の機械的エネルギーに関する最新知見について情報共有いただいた。近年の試験データから、燃焼度の上昇に伴い熱エネルギーから機械的エネルギーへの変換率が増加する傾向が示されていること、現行評価には大きな保守性があるため直ちに国内炉の評価見直しが必要となる見通しではないことが説明された。今後、OECD/NEA 等の国際的な場でも情報共有及び議論が行われる予定。

1 4. その他

令和 8 年度第 4 回運営小委員会は 11 月に開催予定であり、詳細日程は次期庶務幹事の山田委員から別途調整することを周知した。

以 上